

林訳『巴黎茶花女遺事』の語りと文体：「風景」の 発見との関連において

中里見，敬
九州大学言語文化研究院：准教授：中国文学

<https://hdl.handle.net/2324/21782>

出版情報：2012-05-13. 九州中国学会
バージョン：
権利関係：

林訳『巴黎茶花女遺事』の語りと文体 「風景」の発見との関連において

中里見 敬

疑似直接話法(引用者注:自由間接話法に相当するロシア語の話法)に表現を見いだしている本質的にあたらしい他者の言葉の受けとめ方が成立するためには、社会的・言語的交通の内部や発話の相互定位にかんしてなんらかの変動、変革が生じなければならなかった。

——ミハイル・バフチン、桑野隆訳『マルクス主義と言語哲学』
(改訳版) (東京:未来社,1989) 226頁

〔凡例〕

下線は、林訳で省略された部分。

波線は、原文に対応する箇所がなく、林訳で付加された部分。

二重下線は、林訳と原文が大きくずれる部分。

テキストの引用は、次頁以下、見開きで、左から林訳・フランス語原文・現代中国語訳・日本語訳の順とした。ただし紙幅の関係で、現代中国語訳を省略した箇所がある。引用に際し、原文の改行箇所はスラッシュ「/」で代替した。

【L: 林訳】

小仲馬原著、冷紅生輯『巴黎茶花女遺事』(玉情瑤怨館,1901,佛教大学図書館蔵)により、葉数・表裏を記した。施蟄存主編『中国近代文学大系』第11集第26巻・翻訳文学集1(上海:上海書店,1990)所収『巴黎茶花女遺事』の頁数も付した。原テキストに标点符号はないので、大系本により補った。

【F: フランス語原文】

Alexandre Dumas fils; introduction et commentaires d'Henri Béhar, *La Dame aux camélias* (Paris: Pocket, 1998) による。

【Ch: 現代中国語訳】

小仲馬著、王振孫訳『茶花女』(北京:人民文学出版社,1980)。引用は2010年第3次印刷版による。

【J: 日本語訳】

アレクサンドル・デュマ・フィス、朝比奈弘治訳『椿姫』(東京:新書館,1998)による。

自由間接話法に関わる箇所のみ、【 】内に斜体字で英訳も付した。

【E: 英訳】

Alexandre Dumas fils; translated by Edmund Gosse; with a new introduction by Toril Moi, *Camille: The Lady of the Camellias* (New York: Signet Classic, 2004) による。

【例 1L：冒頭部分（比較的正確な翻訳）】

(1) 小仲馬曰：凡成一書，必詳審本人性情，描畫始肖；猶之欲成一國之書，必先習其國語也。(2) 今余所記書中之事，爲時未久，特先以筆墨渲染，使人人均悉事係紀實，雖書中最關係之人，不幸歿死，而餘人咸在，可資以證。此事始在巴黎，觀書者試問巴黎之人，匪無不知，(3) 然非余亦不能盡舉其纖悉之事；蓋余有所受而然也。(4) 余當一千八百四十年三月十三日在拉非德見黃榜署拍賣日期，(5) 爲屋主人身故，身後無人，故貨其器物，榜中亦不署主人爲誰。(6) 准以十六日十二點至五點止，在恩談街第九號屋中拍賣。(7) 又預計十三十四二日，可以先往第九號屋中省識其當意者。(8) 余素好事，意殊不在購物，惟必欲一觀之。(9) 越明日，余至恩談街，(1 葉 a 面/140 頁)

【例 1F】

(1) Mon avis est qu'on ne peut créer des personnages que lorsque l'on a beaucoup étudié les hommes, comme on ne peut parler une langue qu'à la condition de l'avoir sérieusement apprise. / N'ayant pas encore l'âge où l'on invente, je me contente de raconter. / (2) J'engage donc le lecteur à être convaincu de la réalité de cette histoire dont tous les personnages, à l'exception de l'héroïne, vivent encore. / D'ailleurs, il y a à Paris des témoins de la plupart des faits que je recueille ici, et qui pourraient les confirmer, si mon témoignage ne suffisait pas. (3) Par une circonstance particulière, seul je pouvais les écrire, car seul j'ai été le confident des derniers détails sans lesquels il eût été impossible de faire un récit intéressant et complet. / Or, voici comment ces détails sont parvenus à ma connaissance. — (4) Le 12 du mois de mars 1847, je lus, dans la rue Laffitte, une grande affiche jaune annonçant une vente de meubles et de riches objets de curiosité. (5) Cette vente avait lieu après décès. L'affiche ne nommait pas la personne morte, (6) mais la vente devait se faire rue d'Antin, n° 9, le 16, de midi à cinq heures. / (7) L'affiche portait en outre que l'on pourrait, le 13 et le 14, visiter l'appartement et les meubles. / (8) J'ai toujours été amateur de curiosités. Je me promis de ne pas manquer cette occasion, sinon d'en acheter, du moins d'en voir. / (9) Le lendemain, je me rendis rue d'Antin, n° 9. (I, pp. 25-26)

【例 1Ch】

(1)我认为只有在深入地研究了人以后，才能创造人物，就像要讲一种语言就得先认真学习这种语言一样。/既然我还没到能够创造的年龄，那就只好满足于平铺直叙了。/(2)因此，我请读者相信这个故事的真实性，故事中所有的人物，除女主人公以外，至今尚在人世。/此外，我搜集在这里的大部分材料，在巴黎还有一些人证；如果我的证据还不够的话，他们可以为我作证。(3)由于一种特殊的机缘，只有我才能把这个故事写出来，因为惟独我洞悉这件事情的始末，否则是不可能写出一篇完整、动人的故事来的。/下面就来讲讲我是怎样知道这些详情细节的。/(4)一八四七年三月十二日，我在拉菲特街看到一张黄色的巨幅广告，广告宣称将拍卖家具和大量珍玩。(5)这次拍卖是在物主死后举行的。广告上没有提到死者的姓名，(6)只是说拍卖将于十六日中午十二点到下午五点在昂坦街九号举行。/(7)广告上还附带通知，大家可以在十三日和十四日两天参观住宅和家具。/(8)我向来是个珍玩爱好者，决不能坐失良机，即使不卖，也要去看看。/(9)第二天，我就到昂坦街九号去了。(1頁)

【例 1J】

(1)人間というものをじっくり研究してからでなければ、小説の登場人物を作りだすことなどできない、とわたしは思っている。それはちょうど、ある外国語を話したいと思えば、時間をかけてそのことばを学ばなければならぬのと同じことだ。/わたし自身はまだ何かを発明できるほどの年齢にはなっていないので、ありのままに語るだけで満足することにしよう。/(2)だから読者の方々は、この物語が実際に起こったことであり、主人公の女性を別にすれば、ここに登場するすべての人物はまだ生きていたということ、疑わないでいただきたい。/実際パリには、わたしがここに記録するできごとの大部分について知っている者が大勢おり、わたしの証言で不足なら、その人々が事実であることを証明してくれるだろう。(3)ただ、ある特殊な事情のせいで、わたしだけができごとの一部始終を書き得る立場に置かれたのである。というのも、その結末について詳しく打ち明けられたのはわたし一人であり、この詳細を知らなければ、物語は完全なものにも、興味深いものにもならないからだ。/さて、そうした詳細がどのようにしてわたしの知るところとなったか、その経緯から語ることにしよう。——(4)一八四七年三月十二日、わたしはラフィット通りで、家具類や立派な骨董品の競売を公示する大きな黄色い貼り紙を見かけた。(5)所有者の死去にともなう競売だったが、亡くなった人の名はなく、(6)ただ売り立ては十六日の正午から五時まで、アンタン通り九番地においておこなわれると書かれていた。/(7)十三日と十四日には、住居と家具の下見ができることも記されていた。/(8)わたしは昔から、珍しい骨董品が大好きだった。だから買うかどうかはともかくとして、見るためだけにでも、この機会を逃すまいと心に決めた。/(9)翌日、わたしはアンタン通り九番地に向かった。(7-8頁)

【例 2L : 冒頭部分・続 (やや大きな省略や改変をともなう翻訳)】

(1) 爲時尚早，士女雜沓，車馬已紛集其門；(2) 眾人週閱之下，既羨精緻，咸有駭歎之狀。(3) 余前後流覽，乃知爲勾欄中人住宅也。(4) 是時閨秀來者尤多，皆頻頻注目。(5) 蓋良窳判別，平時不相酬答。而彼人華妝外炫，閨秀咸已見之，唯祕藏之處，不可得窺。故此來尤蓄意欲覘其所有，亦婦人之常態也。(6) 彼勾欄人生時，閨秀無從至其家。今其人既死，閨秀以拍賣來，亦復無碍。(7) 爾時眾心甚疑，器物華貴如是，生時何以弗售，必待死時始行拍賣，議論籍籍，余亦弗載。(1 葉 a-b 面/140-141 頁)

【例 2F】

(1) Il était de bonne heure, et cependant il y avait déjà dans l'appartement des visiteurs et même des visiteuses, qui, quoique vêtues de velours, couvertes de cachemires et attendues à la porte par leurs élégants coupés, (2) regardaient avec étonnement, avec admiration même, le luxe qui s'étalait sous leurs yeux. / Plus tard je compris cette admiration et cet étonnement, (3) car m'étant mis aussi à examiner, je reconnus aisément que j'étais dans l'appartement d'une femme entretenue. (4) Or, s'il y a une chose que les femmes du monde désirent voir, et il y avait là des femmes du monde, c'est l'intérieur de ces femmes, (5) dont les équipages éclaboussent chaque jour le leur, qui ont, comme elles et à côté d'elles, leur loge à l'Opéra et aux Italiens, et qui étalent, à Paris, l'insolente opulence de leur beauté, de leurs bijoux et de leurs scandales. / (6) Celle chez qui je me trouvais était morte : les femmes les plus vertueuses pouvaient donc pénétrer jusque dans sa chambre. La mort avait purifié l'air de ce cloaque splendide, et d'ailleurs elles avaient pour excuse, s'il en était besoin, qu'elles venaient à une vente sans savoir chez qui elles venaient. Elles avaient lu des affiches, elles voulaient visiter ce que ces affiches promettaient et faire leur choix à l'avance ; rien de plus simple ; (7) ce qui ne les empêchait pas de chercher, au milieu de toutes ces merveilles, les traces de cette vie de courtisane dont on leur avait fait, sans doute, de si étranges récits. (I, p. 26)

【例 2Ch】

(1) 时间还早，可是房子里已经有参观的人了，甚至还有女人。虽然这些女宾穿的是天鹅绒服装，披的是开司米披肩，大门口还有华丽的四轮轿式马车在恭候，(2) 却都带着惊讶、甚至赞赏的眼神注视着展现在她们眼前的豪华陈设。/ 不久，我就懂得了她们赞赏和惊讶的原因了。因为(3) 在我也跟着仔细打量了一番以后，不难看出我正处身在一个高级妓女的房间里。(4) 然而上流社会的女人——这里正有一些上流社会的女人——想看看的也就是这种女人的闺房。(5) 这种女人的穿着打扮往往使这些贵妇人相形见绌；这种女人在大歌剧院和意大利歌剧院里，也像她们一样，拥有自己的包厢，并且就和她们并肩而坐；这种女人恬不知耻地在巴黎街头卖弄她们的姿色，炫耀她们的珠宝，传扬她们的“风流韵事”。/ (6) 这个住宅里的妓女已经死了，因此现在连最最贞洁的女人都可以进入她的卧室。死亡已经净化了这个富丽而淫秽的场所的臭气。再说，如果有必要，她们可以推说是为了拍卖才来的，根本不知道这是什么人的家。她们看到了广告，想来见识一下广告上介绍的东西，预先挑选一番，没有比这更平常的事了；(7) 而这并不妨碍她们从这一切精致的陈设里面去探索这个妓女的生活痕迹。她们一定听到过一些有关妓女的非常离奇的故事。(1-2 頁)

【例 2J】

(1) 朝早い時間だったが、すでにアパートマンには人が押しかけており、そのなかには女性客も少なくなかった。彼女たちはビロードの服やカシミアのショールを身にまとい、門口には優雅な箱型馬車を待たせるといった上流の婦人たちでありながら、(2) 驚きと賞嘆さえまじった眼差しで、豪華な室内を見まわしていた。/ しばらく経つと、わたしもその賞嘆と驚きの理由がわかった。(3) あちこちを眺めていくうちに、このアパートマンは金で囲われていた女のものであったことが、容易に見てとれたからだ。(4) 見物に来ていた社交界の貴婦人方にとって、なによりも見たいものがあるとすれば、それはこうした女たちの住まいの内部に決まっている。(5) なにしろうこうした女は、毎日のようにその馬車で、自分たちの馬車に泥をはねかけ、オペラ座やイタリア座で貴婦人のような顔をして自分たちの横のボックス席に陣取り、パリ中にその豪勢な美しさと装身具とスキャンダルとを、これ見よがしにひけらかしているのだから。/ (6) わたしとその住まいを訪れている女は、すでにこの世にいない。だからどんなに貞淑な女性でも、その寝室にまで遠慮なく入り込むことができる。この壮麗な不浄の家の空気は死によって浄化されているし、もし言い訳が必要なら、誰の家だか知らずにただ競売の品を見に来ただけだと言えればいい。広告を見て、競売されるものを見たくなり、前もって品定めに来て来た。これほど単純なことはない。(7) そう言い訳したからといって、彼女たちが奇怪な噂をいろいろと聞かされているあの高級娼婦の生活なるものの名残を、こうした素晴らしい品々のあいだに捜し求めることには、なんの差し支えもなかった。(8-9 頁)

【例 3L : マルグリットと老公爵の出会い】

(1) 馬克在巴克尼時，故家眷屬咸集，有一公爵女公子，年與馬克埒，眉目衣飾與馬克畢肖毫髮。(2) 無何女公子死，公爵啣哀，不可以狀。(3) 一日聞行隄上，柳陰濃翳中，見馬克微步苔際，倩影亭亭，酷肖其殤女，大驚，因與馬克執手道姓氏，自言殤女神情與馬克肖，請自今移所以愛女者愛馬克。(4) 馬克許之。(2 葉 b 面/142 頁)

【例 3F】

(1) Là, parmi les malades, se trouvait la fille de ce duc, laquelle avait non seulement la même maladie, mais encore le même visage que Marguerite, au point qu'on eût pu les prendre pour les deux sœurs. (2) Seulement la jeune duchesse était au troisième degré de la phtisie, et peu de jours après l'arrivée de Marguerite, elle succombait. / Un matin le duc, resté à Bagnères comme on reste sur le sol qui ensevelit une partie du cœur, (3) aperçut Marguerite au détour d'une allée. / Il lui sembla voir passer l'ombre de son enfant et, marchant vers elle, il lui prit les mains, l'embrassa en pleurant, et, sans lui demander qui elle était, implora la permission de la voir et d'aimer en elle l'image vivante de sa fille morte. / (4) Marguerite, seule à Bagnères avec sa femme de chambre, et d'ailleurs n'ayant aucune crainte de se compromettre, accorda au duc ce qu'il lui demandait. (II, pp. 34-35)

【例 3Ch】

(1) 在巴涅尔的病人中间，有一位公爵的女儿，她不仅害着跟玛格丽特同样的病，而且长得跟玛格丽特一模一样，别人甚至会把她们看做是姐妹俩。
(2) 不过公爵小姐的肺病已经到了第三期，玛格丽特来巴涅尔没几天，她就离开了人间。/ 就像有些人不愿意离开埋葬着亲人的地方一样，公爵在女儿去世后仍旧留在巴涅尔。
(3) 一天早上，公爵在一条小路的拐角处遇见了玛格丽特。/ 他仿佛看到他女儿的影子在眼前掠过，便上前拉住了她的手，老泪纵横地搂着她，甚至也不问问清楚她究竟是谁，就恳求她允许他去探望她，允许他像爱自己去世的女儿的替身那样爱她。
(4) 和玛格丽特一起到巴涅尔来的只有她的侍女，再说她也不怕名声会受到什么损害，就同意了公爵的请求。(10 頁)

【例 3J】

(1) そこに来ている病人のなかには、この公爵の娘もいたが、彼女はマルグリットと同じ病気を患っていただけではなく、まるで姉妹かと思えるほどそっくりの顔だちをしていた。(2) しかし娘の方はすでに肺結核の第三期に達しており、マルグリットが到着して、あまり日も経たないうちに、亡くなってしまった。/ 人は誰でも、自分の心の一部を埋葬した土地からなかなか離れられないものだが、そのような気持ちからバニエールに留まっていた老公爵は、(3) ある朝、道の曲がり角でマルグリットの姿を見かけた。/ 彼にはまるで娘の亡霊が通りすぎてゆくかのように思われた。そこで彼女に近寄ると、その両手を取り、涙ながらに接吻して、相手の素性も聞かずに、今後たびたび会ってほしい、死んだ娘に生き写しのその姿を愛することを許してほしい、と懇願したのである。/ (4) マルグリットは小間使いを連れていて、ひとりでバニエールに来ていたし、評判を危うくする心配も全然なかったのも、その頼みを聞き入れた。(23 頁)

【例 4L : アルマン、マルグリット、プリュダンスのピクニック】

(1) 車行一點半始至，憩一村店。(2) 店據小崗，而門下臨蒼碧小畦，中間以穠花。(3) 左望長橋橫亘，直出林表；右望則蒼山如屏，葱翠欲滴。山下長河一道，直駛橋外，水平無波，瑩潔作玉色。(4) 背望則斜陽反迫，村舍紅瓦，鱗鱗咸閃異光。遠望而巴黎城郭，在半雲半霧中矣。(5) 配唐曰：“對此景象，令人欲飽。”(6) 余私計馬克在巴黎，余幾不能專享其美，今日屏跡郊垌，麗質相對，一生爲不負矣。(7) 余此時視馬克，已非鶯花中人，以爲至貞至潔一好女子。(26 葉 a-b 面/178-179 頁)

【例 4F】(1) Une heure et demie après nous étions chez la veuve Arnould. / Vous connaissez peut-être cette auberge, hôtel de semaine, guinguette le dimanche. (2) Du jardin, qui est à la hauteur d'un premier étage ordinaire, on découvre une vue magnifique. (3) À gauche, l'aqueduc de Marly ferme l'horizon, à droite la vue s'étend sur un infini de collines ; la rivière, presque sans courant dans cet endroit, se déroule comme un large ruban blanc moiré, entre la plaine des Gabillons et l'île de Croissy, éternellement bercée par le frémissement de ses hauts peupliers et le murmure de ses saules. / (4) Au fond, dans un large rayon de soleil, s'élèvent de petites maisons blanches à toits rouges, et des manufactures qui, perdant par la distance leur caractère dur et commercial, complètent admirablement le paysage. / Au fond, Paris dans la brume! / (5) Comme nous l'avait dit Prudence, c'était une vraie campagne, et, je dois le dire, ce fut un vrai déjeuner. (中略) (6) Mon amour n'était pas un amour ordinaire ; j'étais amoureux autant qu'une créature ordinaire peut l'être, mais de Marguerite Gautier, c'est-à-dire qu'à Paris, à chaque pas, je pouvais coudoyer un homme qui avait été l'amant de cette femme ou qui le serait le lendemain. Tandis qu'à la campagne, au milieu de gens que nous n'avions jamais vus et qui ne s'occupaient pas de nous, au sein d'une nature toute parée de son printemps, ce pardon annuel, et séparée du bruit de la ville, je pouvais cacher mon amour et aimer sans honte et sans crainte. / (7) La courtisane y disparaissait peu à peu. J'avais auprès de moi une femme jeune, belle, que j'aimais, dont j'étais aimé et qui s'appelait Marguerite : le passé n'avait plus de formes, l'avenir plus de nuages. (XVI, pp. 159-161)

【例 4J】

(1)一時間半後に、わたしたちはアルヌーお婆さんの店に来ていました。／ 週日は宿屋になり、日曜は酒場になるあのレストランのことは、多分あなたもご存じだと思います。(2)庭は普通の家の一階ぐらゐの高さにあって、そこからの眺めは素晴らしいものです。(3)左手の地平線にはマルリーの水道橋が見え、右手には起伏のつづく風景が果てなく広がっています。このあたりでは、川はほとんど流れを止めて、ガビヨン平野とクロワシー島のあいだに、白くきらきら輝く幅広いリボンのように伸び広がっており、岸辺に揺れる背の高いポプラと、そよぐ柳のささやきを聞きながら、永遠にまどろんでいるかのようです。／(4)遠くの方には、赤い屋根のついた白い小さな家々が、陽光をいっぱい浴びながら立っており、工場もこれだけの距離から見れば金銭ずくの冷たい外観は消えて、素晴らしい風景の一部と化しています。／そしてさらに遠くには、霧にかすむパリ！／(5)プリュダンスが言ったとおり、これこそ本物の田舎でした。そしてぜひとも言うておかなければなりません、これこそ本物の昼食でした。／ わたしが褒めたたえるのは、なにもそこで味わった幸福への感謝の気持ちからというわけではなく、ブーヅヴァルというところは、名前こそ味気ないものの、想像しうるかぎりもっとも美しい土地のひとつなのです。ずいぶん旅行をしてもっと立派な景色もたくさん見てきたものですが、丘に守られてその麓に楽しげに横たわる、この小さな村ほど気持ちのいい場所は、ほかに見たことはありません。／アルヌー夫人が舟遊びをしてはどうかと勧め、マルグリットとプリュダンスは大喜びで賛成しました。／ 田園風景と恋愛とはいつも結び付けられてきましたが、それも当然のことだと思います。愛する女性を取り囲む風景として、青空や、香りや、花や、そよ風や、畑や森の輝かしい孤独ほどふさわしいものはありません。ひとりの女性をどれほど強く愛し、

その人の心をどれほど信頼し、その人の過去から考えて未来にどれほど確信を持っていても、男はいつでも多少なりとも嫉妬に悩むものです。あなただつてきっと、本当に恋をし、真剣に愛したときには、ひたすらその心のなかで生きていたいと思うその人を、世間から切り離してしまいたいという願いに駆られたにちがいありません。愛する女性が、たとえ世間にまったく無関心であったとしても、まわりの人や物に接触するたびに、その人の香りや純一性がいくぶん失われてしまうような気がするものです。わたしはそのことを、他の人よりずっと強く感じていました。(6)わたしの恋は普通の恋ではありませんでした。普通の人を抱きうるかぎりの気持ちで愛してはいたものの、相手はあのマルグリット・ゴーチエ、すなわちパリでは一歩あるくごとに、彼女の愛人だった男や、明日は愛人になるかもしれない男にぶつかるという女だったのですから。しかし田舎に来てしまえば、出会うのは見ず知らずの、わたしたちにはなんの関心もない人ばかり。都会の喧噪からは遠く離れ、年ごとの許しのように恵まれる、美しい春に飾られた自然のなかで、わたしは人目を避けて、恥ずかしさも恐れもなく愛することができました。／(7)娼婦の面影は自然のなかにだんだん消えていきました。わたしのそばにいるのは、たがいに愛し合っているひとりの若く美しい女、マルグリットという名のひとりの女にすぎません。過去はもはや形もなくなり、未来に暗い影がさすこともありません。(241-244 頁)

【例 4Ch：現代中国語訳は省略】

【例 5L : ピクニック続】

(1) 是時三人乃沿水而行，至一處，見小樓兩楹，矗然水際，樓陰入水，作幽碧之色，(2) 鐵闌一道，闌內細草如氈，樓外雜樹蒙密，老翠交簷，景物閒蒨可玩，(3) 蒼藤蔓生，沿堦及壁。(4) 余知此中幽闐無人，請馬克移家居此，日行林際，倦憩草上，人間之樂當無逾此。(26 葉 b 面/179 頁)

【例 5F】

(1) Ajoutez à cela que, de l'endroit où j'étais, je voyais sur la rive une charmante petite maison à deux étages, avec une grille en hémicycle ; (2) à travers la grille, devant la maison, une pelouse verte, unie comme du velours, et derrière le bâtiment un petit bois plein de mystérieuses retraites, et qui devait effacer chaque matin sous sa mousse le sentier fait la veille. / (3) Des fleurs grimpantes cachaient le perron de cette maison inhabitée qu'elles embrassaient jusqu'au premier étage. / (4) À force de regarder cette maison, je finis par me convaincre qu'elle était à moi, tant elle résumait bien le rêve que je faisais. J'y voyais Marguerite et moi, le jour dans le bois qui couvrait la colline, le soir assis sur la pelouse, et je me demandais si créatures terrestres auraient jamais été aussi heureuses que nous. (XVI, p. 161)

【例 5Ch】

(1) 从我所在的地方，我还看到岸边有一座玲珑可爱的三层楼房屋，外面有一个半圆形的铁栅栏，(2) 穿过这个栅栏，在房屋前面有一块像天鹅绒一样平整的翠绿色的草地，在房子后面有一座神秘莫测的幽静的小树林。这块草地上，头天被踏出的小径，第二天就被新长出来的苔藓淹没了。 / (3) 有些蔓生植物的花朵铺满了这座空房子的台阶，一直延伸到二楼。 / (4) 我凝望着这座房子，最后我竟以为这座房子是属于我的了，因为它是多么符合我的梦想啊。我在这座房子里看到了玛格丽特和我两人，白天在这座山岗上的树林之中，晚上一起坐在绿草地上，我心里在想，这个世界上难道还有什么人能像我们这样幸福的吗？ (124 頁)

【例 5J】

(1) それに加えて、わたしのいるところからは、周囲に半円形の柵をめぐらした三階建の小さなかわいらしい家が、岸辺に見えました。(2) 柵の向こう側、家のまえには、ビロードのようになめらかな緑の芝生がひろがり、建物のうしろには木が茂って小さな森になっています。森にはきっと神秘的な隠れ場所がたくさんあり、夜のあいだにつけられた小道も朝になれば苔が隠してしまうにちがいありません。 / (3) つる植物の花が、人の住んでいないこの家の階段をおおい、二階にまで達していました。 / (4) じっと見つめているうちに、わたしはこの家が自分のものであるように思えてきました。それほどここには、わたしの思い描く夢が凝縮されていたのです。マルグリットといっしょにここに住んでいるわたしの姿が目に浮かんできました。昼間は二人で丘のうえの森で過ごし、晩は芝生に腰を下ろすのです。そんな暮らしができたなら、わたしたちほど幸福な者は、かつてこの世にいなかったことになるのではないかと、わたしは思いました。 (245 頁)

【例 6L：第一次の語り手（デュマ・フィス）から第二次の語り手（アルマン）への転換。[] 内の六字は小字双行の割注】

(1) 亞猛四顧歎曰：“吾當日卽以此時識馬克耳。”(2) 余未及答，亞猛忽顧余曰：“吾與馬克軼事有足紀者，吾言之，君編而成帙，雖不足傳，亦足以明吾兩人夙心也。”(3) 余曰：“君新愈氣促，且緩言之。”(4) 亞猛曰：“吾已夕餐，精神健足，可以從容爲君言馬克事。”(5) 余曰：“諾。”(6) 亞猛曰：“吾敘馬克事以年月出之。君文人，可爲潤色則潤色之。”(7) 余傾聽至終，或愕或歎，歸遂編次成書，不爲增損，蓋紀實也。[以下均亞猛語](8) 亞猛曰：余一日在巴黎。同友人家實睦赴戲園，半齣既終，余起，旋因問行甬道間，有麗人過余側，家君頷之。余曰：“誰也？”家君言：“此馬克也。”（8 葉 a 面/151 頁）

【例 6F】

(1) « C'est à peu près à cette époque de l'année et le soir d'un jour comme celui-ci que je connus Marguerite », me dit Armand, écoutant ses propres pensées et non ce que je lui disais. / (2) Je ne répondis rien. / Alors, il se retourna vers moi, et me dit : / « Il faut pourtant que je vous raconte cette histoire ; vous en ferez un livre auquel on ne croira pas, mais qui sera peut-être intéressant à faire. / (3) — Vous me conterez cela plus tard, mon ami, lui dis-je, vous n'êtes pas encore assez bien rétabli. / (4) — La soirée est chaude, j'ai mangé mon blanc de poulet, me dit-il en souriant ; je n'ai pas la fièvre, nous n'avons rien à faire, je vais tout vous dire. / (5) — Puisque vous le voulez absolument, j'écoute. / (6) — C'est une bien simple histoire, ajouta-t-il alors, et que je vous raconterai en suivant l'ordre des événements. Si vous en faites quelque chose plus tard, libre à vous de la conter autrement. » / (7) Voici ce qu'il me raconta, et c'est à peine si j'ai changé quelques mots à ce touchant récit. / (8) Oui, reprit Armand, en laissant retomber sa tête sur le dos de son fauteuil, oui, c'était par une soirée comme celle-ci ! J'avais passé ma journée à la campagne avec un de mes amis, Gaston R... Le soir nous étions revenus à Paris, et ne sachant que faire, nous étions entrés au théâtre des Variétés. / Pendant un entracte nous sortîmes, et, dans le corridor, nous vîmes passer une grande femme que mon ami salua. / « Qui saluez-vous donc là ? lui demandai-je. / — Marguerite Gautier, me dit-il. (VII, pp. 71-72)

【例 6Ch】

(1) “差不多就像这么个季节，这么个傍晚，我认识了马格丽特。”阿尔芒对我说。他陷入了假想，我对他说话他是听不见的。 / (2) 我什么也没有回答。 / 于是，他转过头来对我说： / “我总得把这个故事讲给你听；你可以把它写成一本书，别人未必相信，但这本书写起来也许会很有趣的。” / (3) “过几天你再给我讲吧，我的朋友。”我对他说，“你身体还没有完全复原呢。” / (4) “今天晚上很暖和，鸡脯子我也吃过了，”他微笑着对我说，“我不发烧了，我们也没有什么事要干，我把这个故事原原本本地讲给你听吧。” / (5) “既然你一定要讲，那我就洗耳恭听。” / (6) “这是一个十分简单的故事，”于是他接着说，“我按事情发生的先后顺序给你讲，如果你以后要用这个故事写点什么东西，随你怎么写都可以。” / (7) 下面就是他跟我讲话的内容，这个故事非常生动，我几乎没有作什么改动。 / (8) 是啊，——阿尔芒把头靠在椅背上，接着说道，——是啊，就是这样的一个傍晚！我跟我的朋友 R·加斯东在乡下玩了一天，傍晚我们回到巴黎，因为闲得无聊，我们就去瓦丽爱丹歌剧院看戏。 / 在一次幕间休息时，我们到走廊里休息，看见一个身材颇长的女人走过，我朋友向她打了个招呼。 / “你在跟谁打招呼？”我问他。 / “玛格丽特·戈蒂埃。”他对我说。(42-43 頁)

【例 6J】

(1) 「ちょうどこんな季節の、こんな日の夕方のものでした、マルグリットと知り合ったのは」と、アルマンはわたしのことばよりも、自分自身の思いに耳をかたむけながら言った。 / (2) わたしは黙っていた。 / すると彼は私の方に向いて、ことばをつづけた。 / 「どうしてもこの話を、あなたにしなければなりません。一冊の本にしてもらえませんか。読む人は信じてくれないかもしれませんが、たぶん書くには面白いと思いますよ」 / (3) 「その話は、もう少し後にしたらどうでしょうね」と、わたしは言った。「まだすっかりなおきつてはいないようですから」 / (4) 「今日は暖かい晩ですし、さっきは若鶏のささ身だって食べました」と、彼は微笑みながら言った。「熱もうありません。ほかにすることもないし、なにもかもはなしてしまいたいです」 / (5) 「どうしてもというなら、聞きましょう」 / (6) 「とても単純な話なんです」と、彼はつづけた。「できごとが起こった順に話すことにしましょう。あとで本にする場合には、別のやり方で書いてもかまいませんよ」 / (7) 彼が語った話は以下の通りである。わたしはこの感動的な物語に、ほとんど筆を加えるようなことはしなかった。 / (8) 「そうです」とアルマンは、肘かけ椅子の背に頭をもたせかけて言った。「そうです、ちょうど今日のような晩のものでした！ わたしは友達のガストン・R といっしょに、田舎で日中を過ごしたあとでした。夕方になってパリに戻ってきて、ほかにすることもないので、わたしたちはヴァリエテ座に入ったのです。 / 幕間に外に出ると、廊下でひとりの背の高い女性とすれ違いました。ガストンが彼女に挨拶をしました。 / 「いま挨拶したのは誰だい」と、わたしは尋ねました。 / 「マルグリット・ゴーチエだよ」(82-83 頁)

【例 7L: 第二次物語言説における第一次物語言説の挿入。□は原テキストの行頭空格】

□(1)小仲馬曰：亞猛言至此，虛怯若不勝者。(2)時天氣微寒，余問亞猛惡寒乎？請下
□風牕。(3)亞猛時以首枕軟櫬上，默然不答。(4)余曰：“君情愫甚緜遠，請以來日言
□之。今理枕且息。”(5)亞猛遂去外衣，歎曰：“我病中得申馬克事，樂甚。君若以
□爲絮者，則請勿言。”(6)余曰：“我固樂聞馬克事者，君苟足自勝，則請再竟其說。”
□(7)亞蒙言曰：

余是時別家實瞳歸，沿途追念馬克言語，一一入於腦際，無一能遺忘者；思深腦動，遂
輾轉不復能睡。(8)自思馬克絕世麗姝，豈區區立談坐議之間，爲人所動？乃爽然若疑夢
寐中所接之馬克。(15 葉 b 面/162 頁)

【例 7F】

(1) En cet endroit de son récit, Armand s'arrêta. / (2) «
Voulez-vous fermer la fenêtre ? me dit-il, je commence à
avoir froid. Pendant ce temps, je vais me coucher. » / Je
fermai la fenêtre. (3) Armand, qui était très faible encore,
ôta sa robe de chambre et se mit au lit, laissant pendant
quelques instants reposer sa tête sur l'oreiller comme un
homme fatigué d'une longue course ou agité de pénibles
souvenirs. / (4) « Vous avez peut-être trop parlé, lui dis-je,
voulez-vous que je m'en aille et que je vous laisse dormir ?
vous me raconterez un autre jour la fin de cette histoire.
/ (5) — Est-ce qu'elle vous ennuie ? / (6) — Au contraire.
/ — Je vais continuer alors ; si vous me laissiez seul, je
ne dormirais pas. » / (7) Quand je rentrai chez moi,
reprit-il, sans avoir besoin de se recueillir, tant tous ces
détails étaient encore présents à sa pensée, je ne me
couchai pas, (8) je me mis à réfléchir sur l'aventure de la
journée. La rencontre, la présentation, l'engagement de
Marguerite vis-à-vis de moi, tout avait été si rapide, si
inespéré, qu'il y avait des moments où je croyais avoir
rêvé. (XI, pp. 108)

【例 7Ch】

(1) 故事讲到这里，阿尔芒停下来了。/ (2) “请你把窗关上好吗？” 他对我说，“我有点儿冷，该我睡觉的时候了。” / 我关上窗户。 (3) 阿尔芒身体十分虚弱，他脱掉晨衣，躺在床上，把头靠在枕头上歇了一会儿，神气好像是一个经过长途赛跑而精疲力竭的旅客，由像是一个被痛苦的往事纠缠心烦意乱的人。 / (4) “你大概话讲多了，” 我对他说，“我还是告辞，让你睡觉吧，好不好？改天你再把故事给我讲完吧。” / (5) “是不是你觉得这个故事无聊？” / (6) “正好相反。” / “那我还是继续讲，如果你让我一个人留下，我也睡不着。” / (7) 当我回到家里的时候，——他接着就讲，不用多加思索，因为所有详情细节都深深地印在他的脑海里，——我没有睡觉，(8) 我开始回忆这一天发生的事：和玛格丽特的相遇、介绍、她私下给我的诺言。这一切发生得那么迅速和意外，我有时还以为是在做梦呢。(78 頁)

【例 7J】

(1) 話がここまで来たところで、アルマンはことばを切った。/ (2) 「窓を閉めてもらえませんか？」と、彼はわたしに言った。「ちょっと寒けがしてきました。失礼して、横になることにします」 / わたしは窓を閉めた。 (3) アルマンはまだ身体がひどく弱っていて、部屋着を脱ぐとベッドに入った。しばらくのあいだ枕のうえで頭を休めてじっとしていたが、その様子は長い旅路に疲れた人か、辛い思い出に心をかき乱された人のようだった。 / (4) 「今日は長く話すぎたようですね」と、わたしは言った。「わたしはもう帰りますから、ゆっくり眠ってはどうですか？ 話のつづきは、また別の日に聞かせてもらうことにしましょう」 / (5) 「退屈ですか？」 / (6) 「とんでもない」 / 「それなら、つづけましょう。ひとりにしてもらっても、眠れそうにありませんから」 / (7) 「さて、わたしは家に帰りましたが」と、アルマンはことばをつづけた。細かいところまですべてありありと頭に浮かんでいるので、思い出すまでもないといった様子だった。「ベッドには入らず、(8) その日のできごとについてじっくり思い返してみました。マルグリットとの出会い、紹介、そしてわたしへの約束と、すべてがあまりにも素早く、これ以上は望めないようなかたちで進んだもので、夢を見たのではないかと思えるときもあつたほどです。(149-150 頁)

【例 8L：林訳が省略する物語行為の例】

{(1)(2)省略あり} (3)自是以來，余益信馬克，乃不復爲躁厲之態，一惟馬克之言是聽。(4)然余時時恆不樂，蓋余在巴黎無一知者。自暱馬克，乃身擁絕代麗姝，人遂漸知有我。(5)憶余雖受覆於馬克，實未嘗傾我囊橐，而時時購花飲酒，聽劇賃廂，所費亦復繁重。(6)余本非鉅家，老夫在某銀行爲收發。(中略)

今既識馬克，花晨月夕，匪日不隨，八千之費，三月已盡。{(7)省略あり}乃賃得六千佛郎，躬赴博場，冀有所得，以供馬克之用。(177-178 頁)

【例 8F】

(1)J'aurais pu, me dit Armand, vous raconter en quelques lignes les commencements de cette liaison, mais je voulais que vous vissiez bien par quels événements et par quelle gradation nous en sommes arrivés, moi, à consentir à tout ce que voulait Marguerite, Marguerite, à ne plus pouvoir vivre qu'avec moi. / (2)C'est le lendemain de la soirée où elle était venue me trouver que je lui envoyai *Manon Lescaut*. / (3)À partir de ce moment, comme je ne pouvais changer la vie de ma maîtresse, je changeai la mienne. / (4)Je voulais avant toute chose ne pas laisser à mon esprit le temps de réfléchir sur le rôle que je venais d'accepter, car malgré moi, j'en eusse conçu une grande tristesse. Aussi ma vie, d'ordinaire si calme, revêtit-elle tout à coup une apparence de bruit et de désordre. / (5)N'allez pas croire que, si désintéressé qu'il soit, l'amour qu'une femme entretenue a pour vous ne coûte rien. Rien n'est cher comme les mille caprices de fleurs, de loges, de soupers, de parties de campagne qu'on ne peut jamais refuser à sa maîtresse. / (6)Comme je vous l'ai dit, je n'avais pas de fortune. Mon père était et est encore receveur général à C...

(中略)

(7)Pardonnez-moi si je vous donne tous ces détails, mais vous verrez qu'ils furent la cause des événements qui vont suivre. Ce que je vous raconte est une histoire vraie, simple, et à laquelle je laisse toute la naïveté des détails et toute la simplicité des développements. (XVI, pp. 154-155)

【例 8Ch】

(1) 阿尔芒接下去对我说：“我本来可以把我们结合的起因简单扼要地讲给你听，但是我想让你知道是通过哪些事件、经历了哪些曲折，我才会对玛格丽特百依百顺，玛格丽特才会把我当作她生活中必不可少的伴侣。” / (2) 就在她来找我的那个晚上的第二天，我把《玛依莱斯科》送给了她。 / (3) 从此以后，因为我不能改变我情妇的生活，就改变我自己的生活。 (4) 首先我不让脑子有时间考虑我刚才接受的角色，因为一想到这件事，我总是不由自主地感到十分难受。过去我的生活一直是安静清闲的，现在突然变得杂乱无章了。 (5) 别以为一个不图钱财的妓女的爱情，花不了你多少钱。她有千百种嗜好：花束、包厢、夜宵、郊游，这些要求对一个情妇是永远不能拒绝的，而又都是很花钱的。 / (6) 我对你说过了，我是没有财产的。我父亲过去和现在都是 C 城的总税务员，

(中略)

(7) 请原谅我把这么许多琐碎的细节都讲给你听，可是你下面就会看到这些琐事和以后即将发生的事情之间的关系。我讲给你听的是一个真实而简单的故事，我就让这个故事保持它朴实无华的细节和它简单明了的发展过程。

(117-119 頁)

【例 8J】

(1) 「こんなわたしたちの馴れ初めについては」と、アルマンはことばをつづけた。「かいつまんでお話しすることもできたわけですが、ただわたしは、どんなできごとがあり、どんな順序をたどって、わたしがマルグリットの望みになんでも同意するようになり、一方マルグリットはもはやわたしなしでは生きられなくなったのかを、あなたにもよく知っておいてほしかったのです。 / (2) 例の『マノン・レスコー』の本をわたしが贈ったのは、彼女が訪ねてきたその翌日のことでした。 / (3) このとき以来わたしは、彼女の生活を変えることはできなかったので、自分の生活の方を変えてしまいました。 (4) わたしはなによりも、自分が受け入れた役割について、あれこれ考える暇を作らないようにしました。考えるとどうしても、ひどく気が滅入ってしまうからです。そういうわけでわたしの生活は、もともとごく静かなものだったのに、見かけのうえでは急に騒々しく乱れたものになってしまいました。 (5) 玄人の女と恋をすると、相手がどんなに無欲な愛情を持っていたとしても、お金がかからずすむなどとはけっして思わないでください。花束とか、芝居とか、夜食とか、ピクニックとか、自分の恋人にはどうしても拒めないたくさんの気まぐれが、とても高いものにつくのです。 / (6) すでにお話ししたように、わたしには大した財産はありませんでした。わたしの父は以前からずっと C の総徴税官をつとめています。

(中略)

(7) 細々とした話ばかりで申し訳ありませんが、こうしたことが、つづいて起こるいろいろなできごとの原因になったことは、いずれわかっていただけだと思います。わたしが話しているのは、現実に起こった単純な物語なので、こまかい部分も当然の成り行きも、すべてありのままに語ることにしましょう。(233-234, 236 頁)

【例 9L】

余視配唐，其色甚莊，既而問余曰：“過別馬克乎？”予曰：“未也。”配唐曰：“弗去亦佳。”余曰：“何謂？”配唐曰：“既已絕交，過別何益？”余曰：“馬克之事，子知之乎？”配唐曰：“馬克以絕交書示我矣。”余曰：“馬克何說？”配唐曰：“馬克字我曰：‘訖伯哪爾同來之客，甚無禮也，此書何由見貽！’”余曰：“言時其色若何？”配唐曰：“似嗔非嗔，但曰彼饗我兩席，至今未臨謝也。”（23b/174 頁）

【例 10-1L】

余疑“慚媿”二字，不知所謂，豈馬克生時，亦深悉漫郎之為人，媿弗如乎？抑豈亞猛以此譏馬克耶？（3a/143 頁）

【例 10-2L】

余思此人爲馬克所識，何爲見枉？（3a/143 頁）

【例 9F】

Je regardai Prudence, me demandant si elle se moquait de moi. / Mais son visage était sérieux. / —Irez-vous dire adieu à Marguerite? reprit-elle toujours sérieusement. / —Non. / —Vous faites bien. / —Vous trouvez? / —Naturellement. Puisque vous avez rompu avec elle, à quoi bon la revoir? / —Vous savez donc notre rupture? / —Elle m'a montré votre lettre. / —Et que vous a-t-elle dit? / —Elle m'a dit: «Ma chère Prudence, votre protégé n'est pas poli: on pense ces lettres-là, mais on ne les écrit pas.» / —Et de quel ton vous a-t-elle dit cela? / —En riant et elle a ajouté: «Il a soupé deux fois chez moi, et il ne me fait même pas de visite de digestion.» (XIV, pp. 157-158)

【例 10-1F】

Que voulait dire ce mot: Humilité? / Manon reconnaissait-elle dans Marguerite, par l'opinion de ce M. Armand Duval, une supériorité de débauche ou de cœur? (III, p. 22)

【*What was the meaning of the word Humility? Was Manon to recognise in Marguerite, in the opinion of M. Armand Duval, her superior in vice or in affection?*】 (III, p. 22)

【例 10-2F】

Que pouvait me vouloir la personne qui avait donné ce livre à Marguerite? (IV, pp. 28-29)

【*What could the person who had given the book to Marguerite want of me?*】 (IV, p. 28)

【例 9Ch】

我望望普律当丝，寻思她是不是在讥笑我。/ 但是她脸上是一本正经的。/ “你是去向玛格丽特告别吗？”她又接着说，脸上还是那么一本正经。/ “不是的。”/ “这样很好。”/ “你以为这样好吗？”/ “当然啦，既然你已经跟她吹了，何必再去看她呢？”/ “那么你知道我们吹了？”/ “她把你的信给我看了。”/ “那么她对你说什么啦？”/ “她对我说：‘亲爱的普律当丝，你那位宝贝不懂礼貌，这种信只能在心里想想，哪能写出来呢。’”/ “她是用什么语气对你说的？”/ “是笑着说的，她还说：‘他在我家里吃过两次夜宵，连上门道谢都还没有来过呢。’”（110 頁）

【例 10-1Ch】

“惭愧”这两个字用在这里是什么意思？/ 根据阿尔芒·迪瓦尔先生的意见，玛侬是不是承认玛格丽特无论在生活放荡方面，还是在内心感情方面，都要比她更胜一筹？（16 頁）

【例 10-2Ch】

送这本书给马格丽特的人要见我干什么呢？（21 頁）

【例 9J】

わたしは、からかわれているのだろうかと自問しながら、彼女を見つめました。/ しかしその顔は真面目でした。/ 「マルグリットにさよならを言いに行くつもりなの？」と、彼女は相変わらず真面目な顔でつづけました。/ 「いや」/ 「それならいいけど」/ 「そう思う？」/ 「もちろんよ。別れたんだから、もう会う必要はないじゃないの」/ 「それじゃ、別れたってことを知ってるんだね？」/ 「あんたの手紙を見せてもらったわ」/ 「それで、マルグリットはなにか言ってた？」/ 「こう言ったわ。『ブリュダンス、あんたのお友達は礼儀を知らないのね。こういうことは頭で考えても、手紙には書かないものよ』ってね」/ 「どんな調子で、そう言ったの？」/ 「笑いながらよ。それから、こうも言ったわ。『あの人、うちで二度も夜食を取ったのに、挨拶にさえ来ようとしないのね』って」（朝比奈訳 215-216 頁）

【例 10-1J】

「頭を低くして」とはどういう意味だろう？ / このアルマン・デュヴァルという男の考えでは、小説の女主人公マノンも、マルグリットにはかなわないと認めているということだろうか？ だがそれは放埒さの点でかなわないということか？ それとも愛情の点でかなわないということか？ （朝比奈訳 32 頁）

【例 10-2J】

あの本をマルグリットに贈った人物が、わたしになんの用があるというのだろう。（朝比奈訳 40 頁）

【例 11-1L】

已而夜漸深，馬克踪迹益渺，余乃惴惴然以驚疑馬克跌於路，病於巴黎，憂患之事，潮湧雲合矣。（36a-36b/194 頁）

【例 11-2L】

余患馬克豈疑我以父命爲託，溷迹至他人許，尾我覘誠僞乎？又豈配唐以柬招之乎？然余方見配唐，似無其事，（35b-36a/193 頁）

【例 11-3L】

余將日間所見所聞可欣可喜之事，都聚腦間，既而自念吾父既許我矣，此外復有何恐。而馬克于午間時，何以屢屢促余至巴黎，直至余許其四點前不離左右，而馬克始略慰意，豈其中有變幻不可測度之事，用以愚我乎？或且趁余弗在，捷足先至巴黎，垂歸矣，爲人挽留耶？何以不告侍者，且默然不畱一棧，而此一副眼淚，何爲而來？而此匆匆他適，何爲而去？（36a/193 頁）

【例 11-1F】

Cependant, la nuit avançait et Marguerite n'arrivait pas. / L'inquiétude resserrait peu à peu son cercle et m'étreignait la tête et le cœur. Peut-être lui était-il arrivé quelque chose! Peut-être était-elle blessée, malade, morte! Peut-être allais-je voir arriver un messenger m'annonçant quelque douloureux accident! Peut-être le jour me trouverait-il dans la même incertitude et dans les mêmes craintes! (XXII, p. 233)

【Nevertheless, the night went on, and Marguerite did not return. / My anxiety tightened its circle little by little, and began to oppress my head and heart. Perhaps something had happened to her. Perhaps she was injured, ill, dead. Perhaps a messenger would arrive with the news of some dreadful accident. Perhaps the daylight would find me with the same uncertainty and with the same fears.】 (XXII, p. 200)

【例 11-2F】

«Elle est capable d'avoir eu des craintes, pensai-je, et d'être allée à Paris pour s'assurer si la visite que je lui avais dit aller faire à mon père n'était pas un prétexte pour avoir un jour de liberté. / «Peut-être Prudence lui a-t-elle écrit pour quelque affaire importante», me dis-je quand je fus seul; mais j'avais vu Prudence à mon arrivée, et elle ne m'avait rien dit qui pût me faire supposer qu'elle eût écrit à Marguerite. (XXII, p. 231)

【Perhaps she had some suspicion or other, I thought, and went to Paris to make sure that my visit to my father was not an excuse for a day off. Perhaps Prudence wrote to her about something important. I said to myself when I was alone; but I saw Prudence; she said nothing to make me suppose that she had written to Marguerite.】 (XXII, p. 198)

【例 11-3F】

À partir de ce moment, tous les incidents du jour vinrent se grouper autour de mon premier soupçon et le fixèrent si solidement dans mon esprit que tout le confirma, jusqu'à la clémence paternelle. / Marguerite avait presque exigé que j'allasse à Paris; elle avait affecté le calme lorsque je lui avais proposé de rester auprès d'elle. Étais-je tombé dans un piège? Marguerite me trompait-elle? Avait-elle compté être de retour assez à temps pour que je ne m'aperçusse pas de son absence, et le hasard l'avait-il retenue? Pourquoi n'avait-elle rien dit à Nanine, ou pourquoi ne m'avait-elle pas écrit? Que voulaient dire ces larmes, cette absence, ce mystère? (XXII, pp. 231-232)

【From this moment all the incidents grouped themselves about my first suspicion, and fixed it so firmly in my mind that everything served to confirm it, even my father's kindness. / Marguerite had almost insisted on my going to Paris; she had pretended to be calmer when I had proposed staying with her. Had I fallen into some trap? Was Marguerite deceiving me? Had she counted on being back in time for me not to perceive her absence, and had she been detained by chance? Why had she said nothing to Nanine, or why had she not written? What was the meaning of those tears, this absence, this mystery?】 (XXII, p. 199)

【例 11-1Ch】

然而，夜深了，玛格丽特仍旧没有回来。/ 我越来越感到焦虑不安，心里紧张得很。她会不会出了什么事！她是不是受伤了，病了，死了！也许我马上就要看见一个信差来通知我什么噩耗，也许一直到天亮，我仍将陷在这同样的疑惑和忧虑之中。（158-159 頁）

【例 11-2Ch】

“她可能有什么疑虑，”我想，“也许是到巴黎去证实我对她说的去看父亲的事究竟是不是一个借口，为的是得到一天自由。/ “或者是普律当丝有什么重要事情写信给她了，”当剩下我一个人的时候我心里想：“但是在我去巴黎的时候已经见到过普律当丝，在她跟我的谈话里面我一点也听不出她曾给玛格丽特写过信。”（157 頁）

【例 11-3Ch】

想到这里，这天发生的一切事情都围绕着我的第一个怀疑打转，使我的疑心越来越重。所有一切，一直到父亲对我的慈祥态度都证实了我的怀疑。/ 玛格丽特几乎是逼着我到巴黎去的，我一提出要留在她身边，她就假装平静下来。我是不是落入了圈套？玛格丽特是在欺骗我吗？她是不是本来打算要及时回来，不让我发现她曾经离开过，但由于发生了意外的事把她拖住了呢？为什么她什么也没对拿尼纳说，又不给我写几个字呢？这些眼泪，她的出走，这些神秘莫测的事究竟是什么意义呢？（158 頁）

【例 11-1J】

しかし夜は更けるばかりで、マルグリットは帰ってきません。/ 不安がじりじりとその輪を狭め、わたしの頭と心臓を締めつけてきました。たぶん彼女になにかが起こったんだ！ たぶん怪我をしたか、病気で倒れたか、もしかしたら死んでしまったのかもしれない！ たぶん今にも使いの者がやって来て、痛ましい事故を知らせるにちがいない！ いや、たぶん夜が明けても、ぼくはなにも知らされないまま、同じ不安のなかに取り残されているにちがいない！（朝比奈訳 316 頁）

【例 11-2J】

《きっと心配になったんだろう》と、わたしは考えました。《ぼくが父に会いに行くと言ったのが、実は一日自由に過ごすための口実なんじゃないかと思って、それを確かめにパリへ行ったんじゃないかな》/ 《それともリュダンスが、なにか重要な相談事があって、手紙を書いてきたのかもしれない》と、ひとりになってから、また思いました。しかしリュダンスには、パリに着いてすぐ会っています。そのとき、マルグリットに手紙を書いたと匂わせるようなことは、なにも言っていませんでした。（朝比奈訳 313 頁）

【例 11-3J】

この瞬間から、今日一日のあらゆるできごとが、最初の疑惑のまわりに集まってきて、わたしの心のなかではっきりした形を取りはじめました。そうなるとう父の寛大な態度も含めて、すべてがその疑惑を裏付けているように思えてきました。/ マルグリットはわたしがパリに行くことを、ほとんど強要しました。パリに行かずにそばにいてやろうとしたときには、わざと落ちついたふりをして見せました。わたしは罠に落ちたのでしょうか？ マルグリットは裏切ったのでしょうか？ 家をあけたのを気づかれないように早く戻るつもりでいたのに、なにか偶然の事故で手間取っているのでしょうか？ なぜナニーヌに、なにも言わなかったのでしょうか？ いやむしろ、なぜわたしに、何も書き残さなかったのでしょうか？ あの涙は、この不在は、この謎は、いったいどういうことなんのでしょうか？（314 頁）